

尾崎行雄東京市長ワシントンに桜寄贈100周年記念講演会

今年、相模原市緑区又野生まれの「憲政の神」尾崎行雄（号堂）が東京市長時代にワシントンD.C.ポトマック河畔に3000余本の桜を「日米友好の桜」として寄贈してからちょうど100年にあたります。「尾崎行雄を全国に発信する会」では、4月にワシントンで行われた「全米桜祭り」に会員6名が参加して、アメリカ市民の「日米友好の桜」についての熱い想いを桜祭りパレードや各州からの桜の女王などから感じ、また、ワシントン市長や日本大使館を表敬訪問し、尾崎行雄の生誕地・相模原をアピールしてきました。

今回はこの桜寄贈を含めて東京市長時代の尾崎行雄に焦点を当て、記念講演会を開催するものです。多数の市民のご来場をお待ちしています。

日 時：7月14日（土）午後1時～4時

会 場：相模原市民会館会議室

テーマ：「東京市長時代の尾崎行雄の業績」

第1部「東京市のインフラ整備」

講師：石田尊昭（尾崎行雄記念財団事務局長）

1903年から約10年間、尾崎は東京市のインフラ整備に大いに尽力しました。特に、多摩川水源林調査に着手し、市の水源林を買収確保したことは、その後の東京市の発展、市民の生活向上に大いに役立ったことや、汚職や疑獄が蔓延していた当時の東京市で不正・腐敗の芽をつみとるべく、市政の隅々まで厳しい目を向けていたことなど

第2部「ワシントンへ桜寄贈」

講師：大橋孝夫（尾崎行雄を全国に発信する会事務局長）

ち 白露戦争の折、米国大統領の好意に満ちた講話斡旋に対する感謝の気持ちから、時の米国大統領タフト夫人が沼地の多かったワシントン市を美化す するために日本の桜を植えたい希望を持っていることを知り、市民を代表す する意味で桜を寄贈した

第3部「全米桜祭り」参加スライド上映

* 20年前に津久井地域の小中高校、公的機関に植樹した米国からの里帰り桜「号堂桜」が今年も各地に咲き誇っていた様子を納めた写真も会場内に展示

入場無料、問い合わせ（090-4541-8677 大橋）

主 催：尾崎行雄を全国に発信する会

後 援：相模原市教育委員会

